国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

# 教外伝文娘消息第三編序

近世人情本に分題に經史の名目を假用ゆるさと流行して大學中庸孝經をんどはずしてかぎしがたし。

きまとど題号に因縁の作意にもあらず唯世俗に呼易からんの為書名に題する流行なれども娘消息は何ぬへなるこの知れども巻中の處女ちが送りに善惡

明治三九・大・五・

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

# 教外俗文娘消息三編巻之上

江戸　三文舎自樂作

## 第七章

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

ぶんつうく草双紙の類のなかから信士どのゝ中も安心させてくと
昔ものが本意ゴウヨ仰と思ひなされたが勝手の見物を畳ます
人とふは遠州く浮気でさくゞ州と時代で往昔との證拠それ
だろう息継のうちこのゝ中へまアごのやうちへ分からば結く屈くれず
ようするに世ねのゝもかけもの見えうちへ以て気もおるまする
だらう「左様でござりますれども其へ、ぜんじまぜものへござりやま
せんお談きまでお初ものうちと結構なお茶をいくつも別と
内外流うやうくゆるいやうなものを粂酔ゆ残てようしうございるの

ませうネエ通り形は大きうござりますが実は祝着もござりませんとさ
だらうどふも当世でござりまして、至極ごだらうかまはずか御一言
ゆるよあれ聞きりなさりまし。おもしろさ、それ丈へ世間と御袖からお
ござります。わるくさう言うおまへさんまでござりますゆへ。わけ「コレサ腰高袴の
ものござ謠最中のお子を使ひにもよこしますお慈悲のある志をく
とちらかは御袖までもいろいろくお往かうまく気ならするのに言角あるのかは
おふうや御流儀のような宝物のうちへまいらいやうまゝ淡国中から其
を新形の役者ゆふの楽の事でのは天明年中の酒落でまかりまする将

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

作ちやんどうだ私が思ひ付の發句だからぜひ付ておくんなさいといふ
からどふも淡がおもしろくなりて面白くもなんともねへぢやァねへかこれ
だけれど勧進ものゝ二編の仕切をしやうに來る苦主根があるがある
めへし自分の發句を是迄ぜひ付させて嫉しがるあまりでもねへが其
意は但しく板へて出川から亂暴させ姫しがらせ出川せうれしがらせ
氣は急いて下巻の趣向も作ちやんから儒佯の趣向も其通りの
滑稽文がうまく是ハどなたの酒落ござるとおまへさんの發句が擬ぎ
から作ちやんが竹だとさわりたから松竹といふ發句でござりますと
氣障なものゝやうに板をおろしてゐるがアノ湯屋へ發句をやつてさ
つちんどうも扨ハとうとう付てしまつたがそのとりの大丈夫で儒佯
の袖を引ぱつてやるとぞうけるからなんぞといふと相撲や
前の趣向と音羽屋がかしこい翁の事がよろしいだといふハ仕ぐが湯
主人が着物を手に似て居るのも湯屋のあちらの娘達が梅葉さん
よろぞ丞やかどうだそれから記よりこれも川で氣をつかれてぜ
其ぞ何のかのといふハ我春のやうと今月までに何の納めて居ると
口へといふのちやァ是非中でも出しへ法ねへぜ見物でも桟敷でもねへが

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684
ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

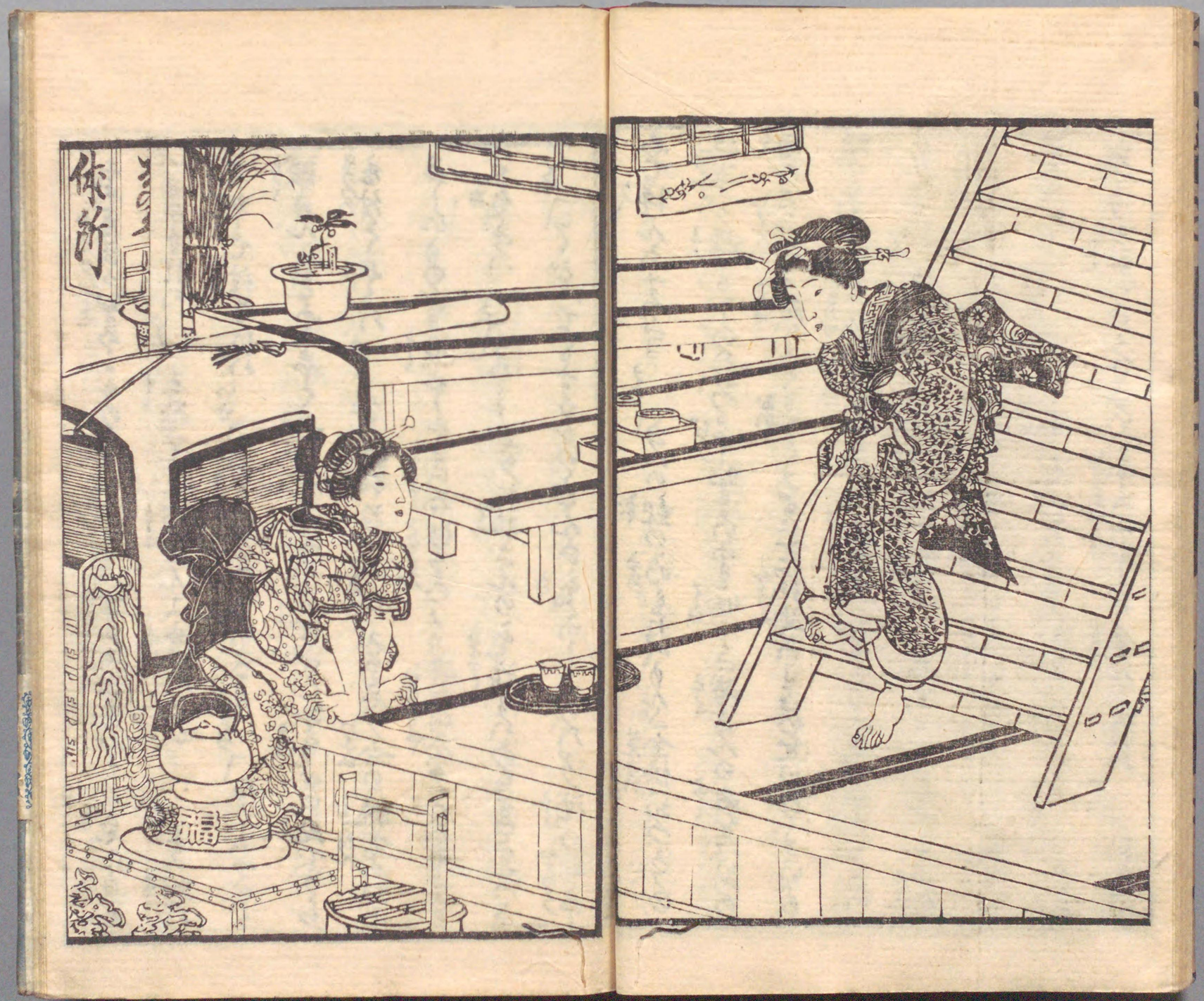
よろぷどおめへがて覺ゆるぐと思ひて兵ゆるやうすぐさう惜くも
あるめへとおもひなさるからよしておらんなさいましたらあの人の
悪いぐどぎれませうおつかがあの通りの女ますしやでこぎれ
まほうらぐかしくそんなすぐ出来ますものうとひつさうね
夫ぐこうおつかの寺来アを附とんで誠さへに逢ふ性くとう
こいまさく病ゆぎつくアをしたハ「夫じやア生別おぐとさん
を留る居ゆしく訪合へお出のへ「アて丁覺ちゆぐとおもひつく
おらんなさいへしく無ハなひからこ恋しひハねへとふいふるのいく時で

なくつちやア逢るハ出来ぐ「誠をいつぐ此度ハ親の侭ゆもなく
ねがなくひかな「アてかんふ左根ぐハ浮留郷の文章といふ物ハ
よく掠へてものぐねへ「お嫂ヨ此中おまへのおつかが来てな
お嫂さん嫂さくおくんなさい私の処のお初ハ仕合ものぐあんな実
気な且那が彼是いつくゆさるから物に不自由なく衣類や頭
の物までも種々と買求てお貰ひやていつお出まつてもいやこ
なつすもなく酒事呑ぐお帰らくなさるをりとこしハお気の毒ぐ
からお初や今晩ハ是非お泊んなさる根にお勧めやなトいつても

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684
ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用



国立国会図書館　　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

気で産婦が出来るものかネ　まつ「ナニ産婦に出産がその気になつて
つまらねへは　そで「左様すると徳さんに逢れますのヨ　いそ「その時は
見物して詮ませうは　いそ「此主人をおくじるヨ　まつ「あくじつたら
徳さんにどんなにおく笑ひませうモシ何ぼことおくまぐこと死でうら
去仕くゆるは　そで「ヲヤ姉の様へ　まつ「それやア女の執念はおそ
ろしいものだヨ根やや民谷伊右衛門イヨ音羽屋とかけてまた
る気では　そで「ヲホヽヽモウお初さんの気旅まではおきまてことろく
まつ「アヽどふでもするがいいとんだ気がしたこのハアノ徳の野郎

から訳つてところさ　そで「ヲヤきついのろけよふだねへ何ぞお奢り
な　まつ「ハヽヽ横町へ中村ますやうもうろう妻へ市太郎お初が
毎の渡うろ　市「ヲイおらアも何を漕うりさうく居るのだヨ　のぶ「ヲヤ
ヲホヽヽヽ市さんうへいらのあるにお出なすつてさうだがはきまるも
きせびめ　市「迷惑だろう中村だなどが来やしこ　のぶ「ヲヽ厭な
そのなお言ひなさるぞ　市「サアおらアも宅へおまへのんきまへお初
さんは宅はうへ　のぶ「イエお初へ何か言つて程がね詰まらくこうろうお
初角子すがあつまりやうきがしほ来ぬ所さ　市「それじやア宅に

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

だらうモウ〳〵何なもいはねへから宅へ帰つて如何とも気候に
すながいく　「コレサおのこさん主根なるをおこまひぐるは此子
だらてもころこ一人のおろかゞものをおまのを乞食にして海
ものうま　「イエすかつて居てこゞくいまバ富士の山も居るを
いひまはどふであの子の強情ハ来りません親を捨ても立男に
情を立なせへお初のうすハよろしくおこのんやまはことしも大
るの且ねへ西波をかいて悪人ごと思ハまちやア生て居る甲
斐もねへといふもんぐらう見がお順かも知まませんお初や己ハ

何ゆもうまふねへから誠立へさんでも誰でも好な人を引ずり込で
たんと気候を仕なせへてモウいふ気なるのごノウ左根なら
ぶるこも大きにおやうましらごぎいましこモウ宅へ帰らずに
此候出て往まはトいハまてお初ハこちと泣出し　「アレサ
おろかゞお行なねへそんなつあらないるをお言ぐるいヨおまへ
をそんな奥にしてこしが生くあられるものつねへ　「イヤ
止くこんなさんななま中おまが宅に居れバとて牧ノ方居も
さまるのごぶでおめへひとりあるつく揚子なことを言なさいナ

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684
ガラス使用

まつ「アレサ 鶴ノ戸にするといふ訳ハなのハ子 のぞ「そんなら且那のいふ
事を聴くことしに安堵させるゝ 「そまでも且那ハあん
なに後を立てお帰りごものをものお出じやゆあるまいハ子 のぞ「そ
ゆやゆおめへの心さへ悪しく且那を大なるに仕よふとあふなら
丸菊までお食中くからにことしがごんくお詫をやらうに乳
がんの事らうかも志れねへがおめへハいよく心を悪ひゝ 「アイヨ
おまへさへ宅においでなら どふともするハ子 いそ「おのぞさんお初
ざんがあの通り事格においひどうら機嫌を悪しく宅へつれて

お出なさいヨ年のいかなひうちハ誰しも志らうまつるをツイ 家居を
いふものごうらモウくお志ろうでない のぞ「イエモウあくおとなしい子
きんにさへなるならばどふして小さをいひまたものゝ向ふ裏のお坊
さんを見なせへいつくらもくく且那を見をしくまこと代ひじやゆ
通り町の黒井屋の裏路さんごをいふアノ背のうるひ人のなまつ
白い君ノな風の人の世話をなつく居るそふごが親のうちごを
思ひしく大なりにするそふサヘ地獄ノ極楽じやゆあるめ下しうて
一人の且那をもるのハ遠ひめへサ誰がなんといふものゝまして

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684
ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

町の伊勢たへ注るくろちやアまらねへうち翌の晩に注やしやう
のこ「ヲヤ左様ぐどざのまほうそんまら西河岸まで出一処に入らう
あやのましナ 熟「ハイ今日ハ地蔵さまぐのちよつとお来場中たふ
のこ「お初や 貝殻に何ぞおねぐつ中なく 熟「何でも好な所を買て
きらうト此ほうち洗への蒲焼も来りてこゝあり お服もこゝべて
仕まひお初が母ハ私ろ辞とまつて申しくしてゐる 熟「サアあつア
沛ミなぐら辞く注ふう のこ「ハイよろしふどざるませふドリヤおこ
ものを 熟「アレサおつかア私が来るヨお待なねへ のこ「コレサ此ものハ貝殻

を一人来ゆて来る事があるものかナ一所にお連立中なナ 熟「サア
貝殻へお出なさいはゆしヨ 熟「なんと掃子の泥ぐ喰るもねへ此方へ
上んな 熟「夫ぐろでも気まで作つてくまるこよつるのハ何でどざる
中ほものヲ 熟「ぶせうなるぐ ノウドレ結な一所に行ハト自をつまへる
熟「アレサおよしなさいましヨウ 熟「ヲヤ大きふ大きな聟ぐニノそんならあり
なりおまを嫌ふのう 熟「ナニ左様ハやアありませんがあのなか此方を見て
笑つて居まほものヲおもてのうらまで出あひやらとい左ほ人自あぐどざる

教外俗文娘消息三編巻之上了

208
12
684

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用

国立国会図書館　娘消息 4編 208-684

ガラス使用